

工 種	鋼橋架設工
-----	-------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
<p>4. 主桁質量は「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総質量である。なお、鋼床版桁の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片の質量の合計も含む。</p> <p>5. 主桁架設回数には鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。</p> <p>6. クレーン賃料、架設工具損料等は、表 13.1 により別途計上する。</p> <p>7. 諸雑費は、発動発電機を使用した場合の燃料・油脂類及び消耗材料費の費用であり、労務費の合計額に、表 6.1～表 6.3 の率を乗じた金額を上限として計上する。 なお、商用電源を使用した場合は、商用電力料及び消耗材料費として（ ）内の率を乗じた金額を上限として計上する。</p> <p>8. 日当り施工量Dwは、小数第2位を四捨五入し、第1位とする。</p> <p>9. 橋梁排水管設置と鋼橋架設を同時発注する場合、橋梁排水管設置については、「第IV編第7章 橋梁工⑩橋梁排水管設置工」により別途計上する。</p> <p>10. アーチ橋、ランガー橋架設歩掛は、橋梁形式トラスとする。</p> <p>11. 検査路架設における下部工のアンカー設置は、14. 検査路架設工（4）アンカーボルトの歩掛を適用する。</p>		<p>現行どおり</p>	<p>記載の変更</p>
IV-7-③-8		<p>11. 「第IV編第7章⑩橋梁検査路架設工3-1アンカーボルト設置歩掛」を適用する。</p>	
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																								
現 行	<p>7. 現場溶接工 現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">表7.1 現場溶接工歩掛</p> <table border="1"> <tr> <th>日当り施工量 Dh (m/日)</th> <th>編 成 人 員 (人)</th> <th>諸 雑 費 率 (%)</th> </tr> <tr> <td>$Dh = \frac{M \times \alpha \times \beta}{1.03M/10 + 12.6}$ ただし、$3 \beta \leq Dh \leq 10 \beta$</td> <td>橋りよう世話役 橋りよう特殊工</td> <td>1 8</td> </tr> </table> <p>M：鋼製橋脚溶接総実延長 (m) α：板厚による係数 (付表-1) β：溶接ビード仕上げによる影響係数 (付表-2) (注) 1. 橋脚が複数ある場合は、各橋脚毎に溶接実延長を算出する。</p> <p style="text-align: center;">付表-1 板厚による係数 (α)</p> <table border="1"> <tr> <th>平均板厚 (mm)</th> <th>20 未満</th> <th>20 以上 30 未満</th> <th>30 以上 40 未満</th> <th>40 以上 50 未満</th> <th>50 以上 55 未満</th> </tr> <tr> <td>α</td> <td>1.15</td> <td>1.00</td> <td>0.85</td> <td>0.70</td> <td>0.55</td> </tr> </table> <p>備考 平均板厚は、下記のとおり加重平均して算出する。 平均板厚 = $\frac{(t_1 \times \theta_1) + (t_2 \times \theta_2) + \dots}{\theta_1 + \theta_2 + \dots}$ t n：各々の板厚 (mm) θ n：各々の板厚に対する延長 (m)</p> <p style="text-align: center;">付表-2 溶接ビード仕上げによる影響係数 (β)</p> <table border="1"> <tr> <th>仕上げの程度</th> <th>β</th> </tr> <tr> <td>ビード仕上げ無し</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>〃 有り</td> <td>0.80</td> </tr> </table> <p>備考 溶接ビード仕上げによる影響係数 (β) は、下記のとおり加重平均して算出する。 影響係数 (β) = $\frac{(1.00 \times \theta_1) + (0.80 \times \theta_2)}{\theta_1 + \theta_2}$ θ 1：ビード仕上げ無しの溶接延長 (m) θ 2：ビード仕上げ有りの溶接延長 (m) ただし、影響係数は小数第3位までとし、2位を四捨五入する。</p> <p>(注) 1. 本歩掛は、鋼製橋脚架設に伴う現場溶接工に適用する。 2. 本歩掛は、母材材質がSM400～SM570の場合に適用する。 3. 付表2における「ビード仕上有り」とは、道路橋示方書に示す余盛り高さ以上に平滑に仕上げ上げる場合を示す。 4. 諸雑費は、現場溶接工に伴う部分作業床 (安全ネット付)、仮締めボルト、ドリフトピン、空気圧縮機、整流器、電気溶接機・CO₂自動溶接装置・溶接棒乾燥機損料、溶接棒、溶接ワイヤ、CO₂ガス、防風設備、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 5. 日当り施工量Dhは小数第2位を四捨五入し、第1位とする。</p> <p style="text-align: center;">IV-7-⑬-4</p>	日当り施工量 Dh (m/日)	編 成 人 員 (人)	諸 雑 費 率 (%)	$Dh = \frac{M \times \alpha \times \beta}{1.03M/10 + 12.6}$ ただし、 $3 \beta \leq Dh \leq 10 \beta$	橋りよう世話役 橋りよう特殊工	1 8	平均板厚 (mm)	20 未満	20 以上 30 未満	30 以上 40 未満	40 以上 50 未満	50 以上 55 未満	α	1.15	1.00	0.85	0.70	0.55	仕上げの程度	β	ビード仕上げ無し	1.00	〃 有り	0.80	改 正 現 行	備 考
日当り施工量 Dh (m/日)	編 成 人 員 (人)	諸 雑 費 率 (%)																									
$Dh = \frac{M \times \alpha \times \beta}{1.03M/10 + 12.6}$ ただし、 $3 \beta \leq Dh \leq 10 \beta$	橋りよう世話役 橋りよう特殊工	1 8																									
平均板厚 (mm)	20 未満	20 以上 30 未満	30 以上 40 未満	40 以上 50 未満	50 以上 55 未満																						
α	1.15	1.00	0.85	0.70	0.55																						
仕上げの程度	β																										
ビード仕上げ無し	1.00																										
〃 有り	0.80																										
積算上の注意事項		現行どおり	記載の変更																								
			(控え頁) 1/1																								